

(1)事業の概要等

事業番号	B2302-1
実施計画事業	○
実施計画事業以外の事業	

令和5年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	産業活性化事業					担当部			地域活性化営業部		
	事業期間	昭和63年度以前	～	令和7年度以降		担当課			商工振興課			
	小牧市まちづくり推進計画(R1年～R4年)	分野別計画編	基本 施策	23	展開 方向	2	担当係			商工労政係		
	予算区分	一般会計	款	7	項	1	目	1	大	2	中	1
	根拠法令・個別計画	中小企業相談所運営費補助金交付要綱、産業活性化事業費補助金交付要綱					事業種別			一般事業		
	目的・成果 (何のために、どのような成果を期待するか)	市内企業と市民の交流を促進し、地域産業の活性化を図ると共に、中小企業者の育成と健全な発展を図る。中小企業者の経営支援及び技術改善により市内商工業全体の振興に寄与する。										
	対象 (何・誰を対象に)	市内企業										
	内容・手段 (目的達成のためにどのような事業を実施したか)	<p>○中小企業相談所運営費補助 中小企業者育成及び経営指導等を実施している小牧商工会議所内の中小企業相談所の運営費を補助を実施した。 【実施内容】(令和5年度予算 23,000,000円) ・中小企業相談所運営費、伴走型支援事業費 【直接経費の内訳(令和4年度実績)】 ・中小企業相談所運営費 15,000,000円、伴走型支援事業費 7,685,601円</p> <p>○産業活性化事業補助金 市内企業の情報を大学・高校等に提供し、紹介、宣伝するとともに、各企業のPR及び地域との連携を図るための産業フェスタを、商工会議所と共催する。春日井市・春日井商工会議所・小牧商工会議所と共催で、「合同説明会」「教育機関就職担当者と企業との懇談会」を実施した。 【実施内容】(令和5年度予算 11,000,000円) ・就職説明会の開催 ※産業フェスタ未実施(コロナに伴い未実施) 【直接経費の内訳(令和4年度実績)】 ・就職フェア開催(ホテルプラザ勝川3/9 71社 ※3/8オンライン開催あり)、 セミナー開催(8/25 参加企業20社、1/25 参加企業17社) 1,000,000円</p> <p>○中小企業設備近代化事業補助金を実施した。 【実施内容】(令和5年度予算 0円:廃止) ・償却資産を新規取得した市内企業に対する助成 【直接経費の内訳(令和4年度実績)】 対象:83件 39,542,200円</p> <p>○ISO認証取得補助金を実施した。 【実施内容】(令和5年度予算 0円:廃止) ・ISOの認証を得た市内企業に対する助成 【直接経費の内訳(令和4年度実績)】 対象:0件 0円</p>										
	受益者負担	無										

(2) 事業費

事業費	項目		単位等	R1	R2	R3	R4	R5	
	直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	73,975	78,379	61,315	63,257
				国・県支出金	千円	0	0	0	0
				その他	千円	0	0	0	0
			計(A)	千円	73,975	78,379	61,315	63,257	
		対前年比	%	—	105.9%	78.2%	103.1%		
	予算額			千円	73,522	95,546	70,165	79,955	37,256
	人件費	正規職員		人	0.10	0.10	0.10	0.10	
		正規職員(平均賃金)		千円	749	749	749	749	
		その他職員		人	0.00	0.00	0.00	0.00	
その他職員(時給×時間)		千円	0	0	0	0			
計(B)		千円	749	749	749	749			
事業費合計(C=A+B)			千円	74,724	79,128	62,064	64,006		

(3) 業績

展開方向における指標の推移			基本施策	23	展開方向		2
指標名	単位	方向性	基準値	R2	R3	R4	R5
1 「こまき新産業振興センター」における支援企業数	件	↗	71	120	145	94	
2 既存企業に対する各種補助金件数	件	↗	687	1,985	2,518	3,051	
3							

指標	指標ほか		単位	R1	R2	R3	R4	R5	
	成果指標	就職フェアの参加人数	人	目標	—	—	—	—	—
				実績	121	43	72	73	
	活動指標	産業フェスタの参加人数	人	目標	—	—	—	—	—
				実績	18,000	※コロナの為、未実施	※コロナの為、未実施	※コロナの為、未実施	
	単事業あたり	受益者数(a)		人	—	—	—	—	
		受益者あたり事業費(=C/a)		円	—	—	—	—	

(4) 事業の評価

事業の評価	事業の方向性	縮小	対象や手段の絞込み等により、事業のボリュームを縮小すべきもの					
	状況と課題	令和4年度は、就職説明会(就職フェア、セミナー等)を実施したが、参加人数は少なく、また、産業フェスタの実施はできなかった。これは、コロナの影響が続いていたことが要因と考えられるため、この要因は解消できると考える。また、中小企業の事業活動を雇用や市民への情報提供、個別経営支援など様々な側面において、引続き支援していく必要があると考えられる。						
	今後の実施内容	市内事業所が抱える経営課題を解決するため、新たに副業・兼業人材活用支援補助金を実施し、産業の活性化や人材不足の解消を図る。また、市内企業と市民の交流の促進、地域産業の活性化、中小企業者の育成と健全な発展を図るために必要であるが、中小企業相談所運営費補助の内、コロナ対策で拡充した伴走型支援事業費に関しては、アフターコロナの経済活動を注視しながら事業内容を精査し、今後は事業の縮小を図る。						
	事務事業評価による額	5,000	千円	節	細節	細々節	中小企業相談所運営費補助のうち、伴走型支援事業を縮小し、5,000千円の削減を行う。	